

チャンス・チャレンジ・チェンジ

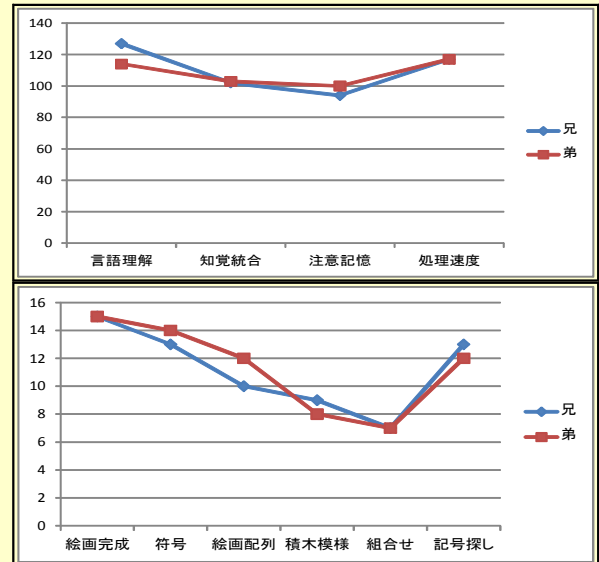
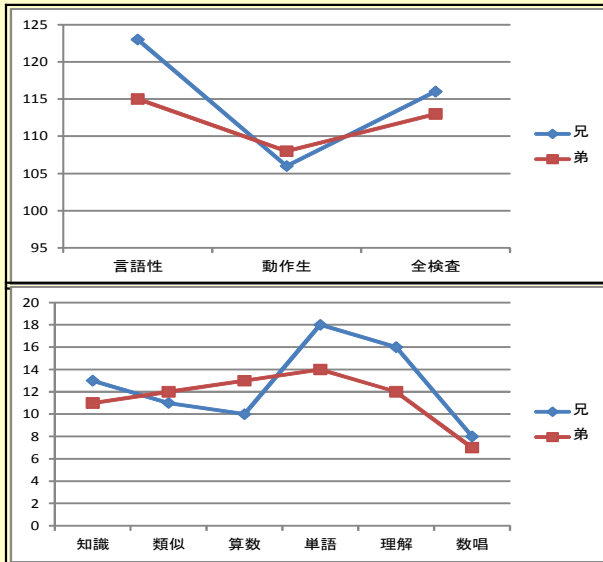
秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



WISC知能検査について



1 一卵性双生児の「WISC-Ⅲ」プロフィール表



- 言葉を理解して操作する力が高い反面、空間認知やイメージで作業する活動が苦手、聴覚的短期記憶に課題がある等、驚くほど似ている結果であった。しかし、性格は兄が大人しくて、弟が活発で感情の起伏が激しい。学校には、検査結果を基に苦手さをカバーする支援方法を伝えた。保護者には、お互い認められたい気持ちが強いので、毎日5分でいいので、それぞれの話を聞いてあげたり、スキンシップをとったりするスペシャルタイムを設けて、「あー楽しかった！」という経験を増やすことを勧めた。

2 「WISC-Ⅳ」を実施して感じていること

- 準備に時間のかかる「組合せ」「絵画配列」がなくなったことや10の基本検査でIQや指標得点を算出できるので、実施時間が短くなり、子どもの負担が軽減された。4つの指標のバランスを考え、補助検査の「絵の抹消」と「算数」は実施している。
- 新たに追加された検査は、子どもの興味を引いている。検査者も実施して楽しい。
- 言葉の意味を求める検査は、Ⅲでは口頭で質問していたが、Ⅳでは問題冊子を提示するので、意味が分からなくても文字を見てイメージして答えられる。
- 言語性IQと動作性IQがなくなり解釈に戸惑ったが、言語性IQ＝言語理解、動作性IQ＝知覚推理に置き換えて分析したことと、これまで以上にワーキングメモリーと処理速度の読み取りを重要視したことで、子どもの全体像が見えてきた。
- 検査器具、検査問題、記録用紙を開示してはならないので、学校や保護者への報告の仕方が難しい。
- 本校では学校用と保護者用の2種類の報告書を作成している。子どもの自己理解を促す場合は、得意なところと苦手なところ、そして、具体的な支援方法を記載した本人用の報告書も作成している。

